

## 2024年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	看護マネジメント			開講期間	4月～9月		
領域	看護の統合と実践	対象学年	3	単位数	1	時間数	30
使用教科書	看護の統合と実践 1 看護管理			出版社	医学書院		
授業のねらい	<p>看護は対象の個別性に特化され、24時間ケアが提供される。しかし、看護師の活動はチーム医療の中で役割を求められ、組織を無視して活動することはできない。看護を取り巻く大きな組織の存在意義、目的、医療経済活動、それらに関する制度政策などを学習する。また、病院・病棟の組織決定プロセス、組織の行動理論も学習し、マネジメントは看護管理者のみが担うものではないことを理解する。加えて医療の経済基盤、診療報酬制度は医療の質を担保することは医療活動にとって不可欠で重要な要素であり、初学者としての経営視点を持つ意義を学ぶ。</p>						
到達目標	看護管理実践に必要な知識・技術が理解できる						
評価基準	終講試験（100%）						

回	講義内容	教授方法等
1	看護管理の定義と構成要素	講義
2	看護におけるマネージメントとは	講義
3	看護ケアのプロセスと患者の権利	講義
4	安全管理の意義と医療事故対策	講義
5	チーム医療と多職種連携	講義
6	看護業務の実践	講義
7	看護職のキャリアマネジメント	グループワーク
8	看護サービスとその提供システム	講義
9	看護人材のマネジメント	講義
10	はたらく環境のマネジメント	講義
11	組織のリスクマネジメント・医療サービスの評価	講義
12	マネジメント手法	グループワーク
13	組織の調整	講義
14	看護活動をとりまく制度・政策	講義
15	まとめと終講試験	

2024年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	看護研究			開講期間	4月～10月		
領域	看護の統合と実践	対象学年	3	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座別巻 看護研究			出版社	医学書院		
授業のねらい	<p>実践の科学である看護行為を他者と共有し、学術知識や実践知識を発展させるためには看護研究による実証が不可欠である。研究とは系統的な探求であり、探求の基礎的な知識と手法を学び展開方法を知ることがを目的とする。また、研究の倫理的姿勢、先行研究・文献検索の手法も学ぶ。臨地実習の事例をとおり、自己の看護ケアを検証することで初学者としての研究のプロセスを学習する。また、演習を通じて研究発表の態度を体現する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護における研究の意義を理解する。</li> <li>2. 研究の基礎的手法を理解する。</li> <li>3. 研究計画書の作成ができる。</li> <li>4. 研究的態度を養い、研究成果の発表ができる。</li> <li>5. 抄録の作成ができる。</li> </ol>						
評価基準	終講試験（50％）研究計画書の作成（30％）研究成果の発表（20％）						

回	講義内容	教授方法等
1	研究とは 研究のステップ 研究計画書 量的・質的研究	講義
2	倫理的配慮 論文クリティーク	講義
3	課題の明確化 自己の実習を振り返る	講義
4	課題の明確化 課題の提出	講義
5	計画 目的 目標	講義
6	方法 医学中央雑誌検索	講義
7	看護研究計画書作成	講義
8	看護研究計画書作成	講義
9	看護研究計画書作成	講義
10	文献カード作成	講義
11	計画書 文献カード作成	講義
12	計画書 文献カード提出	講義
13	抄録の作成	講義
14	抄録の作成	講義
15	抄録の作成	講義

## 2024年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	統合看護実践技術			開講期間	7月～9月		
領域	看護の統合と実践	対象学年	3	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 1 看護管理			出版社	医学書院		
授業のねらい	<p>既習の内容を統合した知識の活用から、臨床という環境の中で看護を提供する方法を学ぶ。                  看護の現場を意識し、看護学生から看護師としての役割を疑似体験することで、数か月後に想定される臨床現場での基礎教育とのギャップやリアリティーショックの軽減を図る。                  また、臨床の場で求められる看護実践を、対象に安全・安楽に提供できるよう、事故防止の知識・技術を学ぶ。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多重課題（複数受け持ちや突発事象）を解決するための優先度を理解する。</li> <li>2. 複数受け持ち患者の援助計画の立案と実施ができる。</li> <li>3. 突発事象（予期しない事案）に対し、安全・安楽を確保した援助が実施できる。</li> <li>4. 多重課題に対し、チーム・他職種連携を考慮した援助を実施できる。</li> </ol>						
評価基準	課題成果物80% 技術演習20%						

回	講義内容	教授方法等
1	看護の統合とは	演習
2	統合看護実践の特徴	演習
3	複数受け持ち患者の情報収集、状況判断	演習
4	複数受け持ち患者の優先度を考えた行動計画の立案	演習
5	複数受け持ち患者への援助	演習 (実習室)
6	複数受け持ち患者への援助の実施・評価	
7	多重課題・突発事象に対する必要で安全な援助	演習 (実習室)
8	多重課題・突発事象に対する必要で安全な援助の実施・評価	